

| | |
|--------|-------------------|
| 目指す学校像 | 希望にあふれ みんなに愛される学校 |
|--------|-------------------|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 ICTの活用による個別最適な学び、探求的な学びの推進《実社会で新しい価値を生み出す力の育成》 2 『学校楽しいなプロジェクト』の実施《安心・安全で活気ある教育活動の推進》 3 芝生を活用した教育活動の充実《特色ある教育活動の推進》 4 ICTを活用した授業改善《教職員研修の充実》 |
|------|---|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| 学校自己評価 | | | | | | | 学校運営協議会による評価 | |
|--------|---|---|---|---|---|-----|--|---|
| 年度目標 | | | 年度評価 | | | | 実施日令和5年2月16日 | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1 | <現状> ○落ち着いて学習に取り組める児童が多い。令和3年度の児童質問紙の項目を見ても「勉強は大切」「授業の内容はよく分かる」の項目がかなり高い結果となっており、学習に対して意欲と目的意識をもって学習に取り組んでいる児童が多い。 ○国語・算数ともに令和3年度の全国学習・学習状況調査の正答率は、市平均を上回っており、自校の経年変化で見ても、特に算数の「図形」においては昨年度より、17pt.上回っている。 <課題> ○算数の「変化と関係に関する問題」では、自校の令和3年度の結果より、8pt.近く下回った。また、理由を記述したり、日常生活の場面に即して判断したりする問題について課題が見られた。 | ・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・SDGsの実現を目指した谷田小学校「総合的な学習の時間」の創出 | ①ICTタイムや授業でドリルパーク等を活用し、漢字や計算等の基礎基本の定着に取り組む。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 ③学力向上カウンセリングを受けることにより、課題が見られた点について、より効果的な手立てを学校全体で共有する。 | ①ICTタイムや授業でドリルパーク等を活用し、漢字や計算等の基礎基本の定着に取り組むことができたか。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できたか。 ③調査結果の分析や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができたか。 | ①基礎基本の定着を図るために、ICTタイムや授業でドリルパーク等を活用することができた。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できた。 ③学力向上カウンセリング研修等を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができた。また、全国学力・学習状況調査の結果についても、改善点等を各学年で話し合い分析することができた。 | A | 学年によって取り組みの差が大きいことが課題である。今年度の市学習状況調査は、タブレットによる実施であったが、扱いに慣れていない学年は、かなり戸惑っていた。タブレットを「当たり前に使えること」が前提になってくるので、児童がしっかりと活用できるよう、意図的に学習計画等に組み込んで、学年や教員の得手不得手によって左右されないようにすることが必要である。 | ・ICTを活用した授業を実際に参観したが、子どもたちの学習にとっても効果的であるとと感じた。 ・子どもたちは、かなりタブレットを使いこなしている様子であるが、ICTを活用する場面と人と人が直接触れ合っただけで学ぶ機会との両方のバランスが大切である。 ・調べ学習等でインターネットを使用する際に、情報をすべて信用してしまうのは危険である。パソコンの使い方とあわせて、子どもたちへネットリテラシー教育も必要である。 |
| 2 | <現状> ○児童は全体的に落ち着いており、あいさつがよくできる。家庭での生活習慣が身に付いている児童が多い。 ○昨年度、学校内でのけがの報告は546件、そのうち医療機関を受診したけがは32件であった。 <課題> ○学校でのルールや雨の日の過ごし方など、教員からの指導を守らせるだけでなく、なぜそういう行動をとるのが大切なのかを子ども自身が考え、危険を回避したり、安全に生活するための力を育てることが課題である。 | ・「その日のことは、その日のうちに」の共通理解と徹底 ・学校楽しいなプロジェクトの実施 | ①生活目標の後に一人一台端末を活用したアンケートの実施や心と生活のアンケート、なかよしアンケートの定期的な実施と結果の分析を行い、特に対象となる児童には、速やかに面談を行う。 ②教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用し、教職員全体で児童の状況を把握、分析し、適切なタイミングで、組織的に支援、相談を行う。 | ①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80パーセント以上となったか。 ②アンケートの結果を受けて児童との面談を実施し、児童一人の状況を継続的に把握できる記録を蓄積する。 | ①心と生活のアンケートやなかよしアンケートの定期的な実施と結果の分析を行い、特に対象となる児童には、速やかに面談を行った。学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80パーセント以上となった。 ②アンケートの結果を受けて、児童との面談を実施し、児童一人の状況を継続的に把握できるような記録を。 | A | 面談の対象となる児童への速やかな面談や課題がある児童への組織的な体制での支援は行っているが、報告が上がってくるまでに時間がかかった案件があり、全教員の「その日のことは、その日のうちに」の共通理解と徹底が引き続き必要である。 | ・教員と子どもの認識のずれがあるかもしれないので、学校評価アンケートの子どもと教員の結果の相関関係を考察することが大切である。 ・先生方には、子どもたちがその日にあったことを話しやすい環境を作っていたいただけとありがたい。 |
| 3 | <現状> ○昨年度から、学校運営委員会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくことを共有した。 <課題> ○学校運営委員会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域、企業などに広め、地域の人々と共有できるようにする。 | ・校庭の芝生を活用した特色ある教育活動の充実 ・学校運営の改善と児童生徒の健全育成に向けた谷田小学校コミュニティ・スクールの実施 | ①芝生を活用した行事や地域を巻き込んだ行事を実施し、児童が学校・地域を大切にしている気持ちを育成する。 ②150周年の行事等でも芝生を活用し、ホームページや学年便り等で、家庭にも周知する。 | ①芝生活用委員会を中心に、芝生の活用について検討し、継続的に実施していけるように一覧表を作成する。 ②ホームページや学年便り等で、芝生を活用した行事の情報を発信し、家庭、地域と共有する。 | ①芝生活用委員会で芝生の活用について検討し、年間計画を作成して、芝生を活用した地域・家庭参加型の運動会や行事を実施することができた。 ②芝生を活用した運動会や芝生給食等の取組をホームページや学年便り等で、家庭、地域にも周知することができた。 | A | 芝生の維持管理が課題である。地域のボランティアさん(3名)が毎日のように手入れをしてくれているが、芝刈りに必要なガソリンの予算ももらえず、困っている。また、ボランティアさんが高齢のため、今後に向けての人材確保も課題である。 | ・今年の運動会は通常規模の開催で、さらに地域種目や保護者リレーも実施したが、とてもよかった。芝生の良さを知らせてもらえたこと、ぜひ来年度も実施してほしい。 ・芝生の手入れをボランティアさんが善意でやってくれているので、必要な予算は何とかしてもらいたい。 |
| 4 | <現状> ○昨年、学校課題研修で、効果的なICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり、研修を重ねてきた。 ○高学年での教科担任制実施により、より深い教材研究を行い、授業を行っている。 <課題> ○ICTの活用について、教員間で取り組みの差が見られる。 | ・学校課題研修を中心とした学びの自律化・個別最適化実現のためのアクション | ①ブロック、研究部、そして教科を横断しての組織的な研修を実施し、全学年で、研究授業と公開授業を実施する。 ②エバンジェリストを中心に各教科と総合的な学習の関連を図りながら、STEAMSタイムの内容の検討と年間計画への位置付けを行う。 | ①昨年度から取り組んでいるものを参考にしながら、改善点等があれば、修正や付け足しをしながら、誰もが活用できる谷田小学校ICT実践事例集を作成する。 ②今年度の実践を基にSTEAMSタイムを位置付けた総合的な学習の時間の年間計画を作成する。 | ①主にブロック、学年を中心に研修を実施し、全ブロックで研究授業と公開授業を実施した。また、日々の授業から、誰もが活用できるICT実践事例集を作成することができた。 ②各教科と総合的な学習の関連を図りながら、今年度の実践を基にSTEAMSタイムを位置付けた総合的な学習の時間の年間計画を作成した。 | A | 研究部、そして教科を横断しての組織的な取組の効果の検証が十分なされていない。今後は、専門部の活動をさらに充実させ、研修を深めていくことが大切である。 | ・教員の負担が多くなっていることが心配である。負担が増えることで、心の余裕がなくなり、子どもと向き合えなくなるのが心配である。 |